

## 学校教育評価

# 2学期アンケート結果、及び 本年度 4 月との比較による考察

### 【1 学期 アンケート】

実施日 : 平成 30 年 7 月

調査人数 : 全校児童 229 人 (低学年 129 人・高学年 100 人)

保護者アンケート児童数配布 回答数 205 人 (家庭数 162 戸)

教職員 21 人

### 【2 学期 アンケート】

実施日 : 平成 30 年 12 月

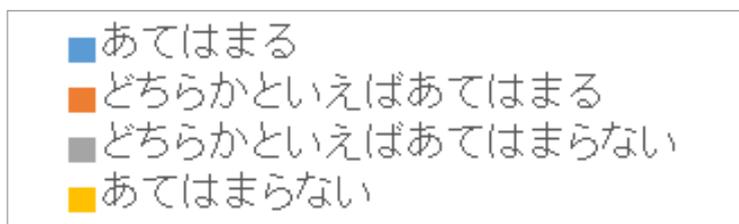
調査人数 : 全校児童 229 人 (低学年 129 人・高学年 100 人)

保護者アンケート児童数配布 回答数 195 人 (家庭数 162 戸)

教職員 20 人

### 【評価結果のグラフ】(数字は%)

- A (あてはまる)
- B (どちらかといえばあてはまる)
- C (どちらかといえばあてはまらない)
- D (あてはまらない)



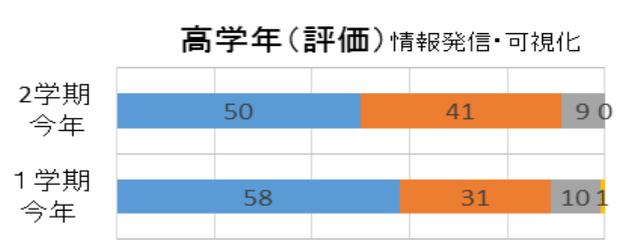
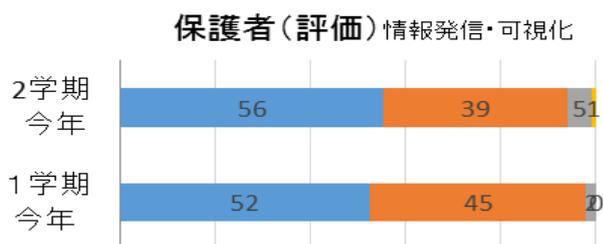
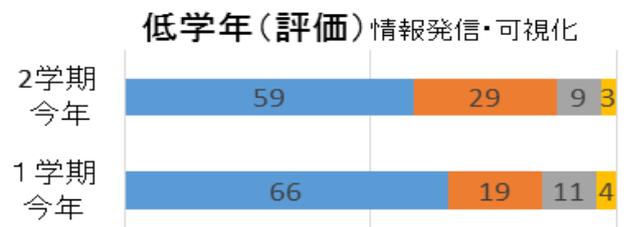
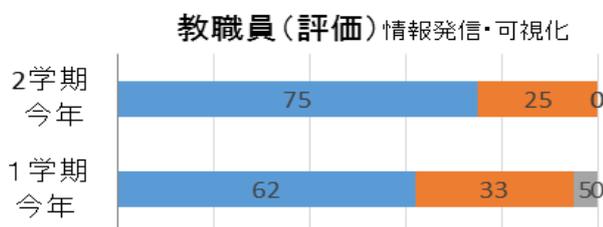
## 【開かれた学校づくり】

	日常の学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。	%	A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問1 問2	75 55	25 40	0 5	0 0	A A	A
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問1	56	39	5	1	A	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問1 問2	55 82	34 14	9 2	2 3	A A	

**教職員** (問1) 学校からの家庭や地域への情報発信(学校・学年・学級だより、ホームページも含む)はよくできていると思う。

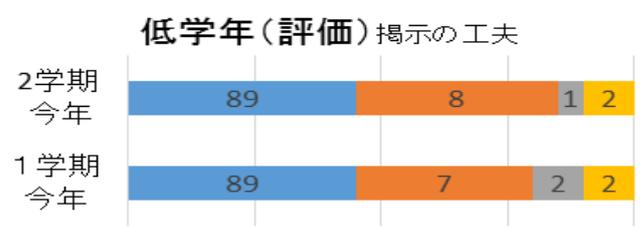
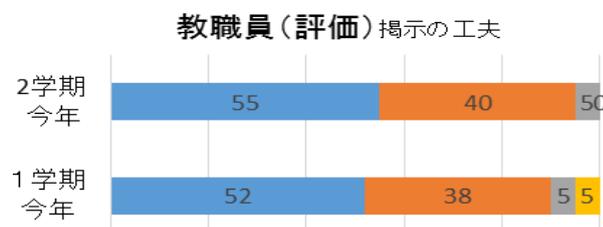
**保護者** (問1) 学校便り、学年便り、学校からの様々なお知らせ文書により、学校の様子がよくわかる。

**児童** (問1) 学校からのプリント類は、必ず家の人に渡し、見てもらっている。



**教職員** (問2) 子どもの学習活動の取組がよく見えるように、掲示の工夫をしている。

**児童** (問2) 自分が、がんばったことが、教室やろうか、はってある。



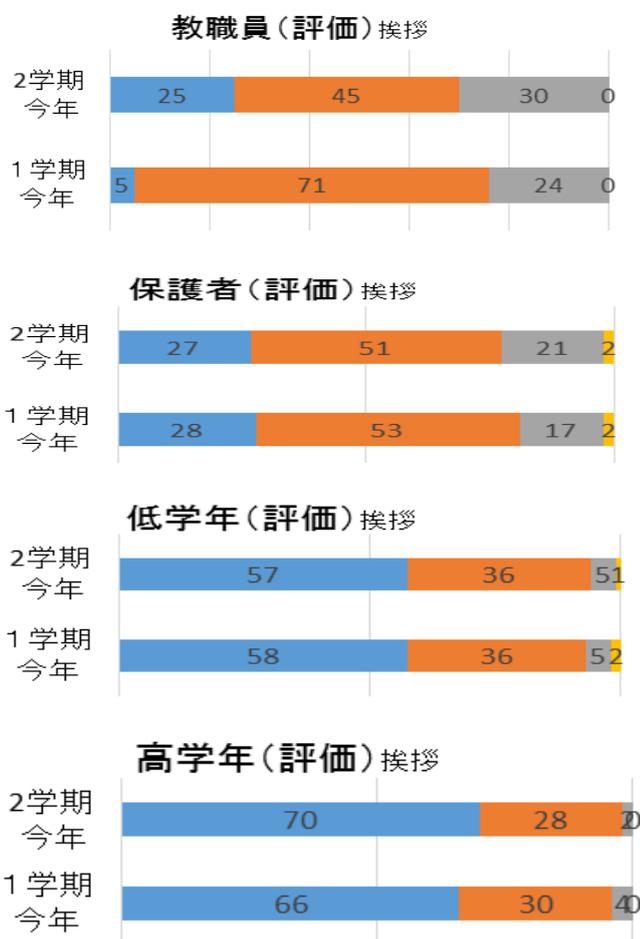
〈情報発信と可視化・掲示の工夫について〉

- ・情報発信と可視化、掲示の工夫の全項目について、A評価である。
- ・学校からの配布物について、児童の評価は下がる傾向にあるので、今後も十分指導の必要がある。
- ・掲示物については、どの学年も、各担当、担任外、担任、それぞれの分野(児童会・人権・食育・算数スキルの評価、月目標等)で積極的に掲示物の工夫、及び掲示を行っている。

## 【生活指導】

	家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。	%	A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	問3	25	45	30	0	B	B
保護者	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	問2	27	51	21	2	B	
児童	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	問3	63	33	4	0	A	

- 教職員** (問3) 子どもたちは、学校でも地域でも挨拶するようになってきた。
- 保護者** (問2) 自分の子どもは、家でも、学校でも、地域でもよく挨拶をしている。
- 児童** (問3) 家でも学校でも、地域でも自分から進んであいさつをしている。



〈挨拶について〉

- 大きくは変わらないが、1学期に比べ、2学期の方が挨拶ができていないという結果が出ている。玄関口での朝の挨拶など、継続的な取り組みはできていたが、企画活動ができなかったことに原因があるかもしれない。
- 子どもたちと保護者・教職員の意識にずれがある。子どもたちはやっているつもりだが、教職員や親から見ると十分ではないように見えている。学校外での子どもたちの挨拶がまだ十分ではないことが結果に表れているのではないかと考えられる。

## 【生活指導】

	自分の持ち物やみんなが使う物を大切にすることを育てる。	%	A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問 4	20	65	15	0	B	B
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問 3	24	65	10	2	B	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問 4	80	17	2	0	A	

児童

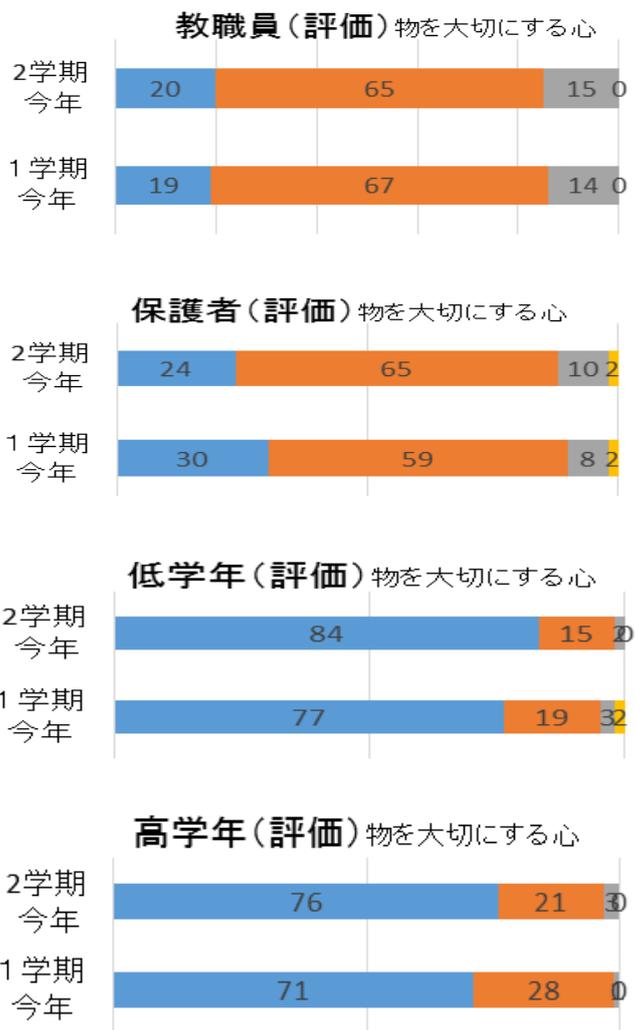
(問 4) 自分の持ち物や、みんなで使う物を大切にしている。

保護者

(問 3) 自分の物や、みんなで使う物を大切にしている。

教職員

(問 4) 自分の持ち物や、みんなで使う物を大切にしようとする心が育ってきた。



〈ものを大切にできる心について〉

- 1学期より2学期の評価が少し低くなっているものの、物を大切にしようとする気持ちは育っていると考えられる。実際、学校内での器物破損の件数は少ない。片づけの意識もできる児童が増えているように感じる。

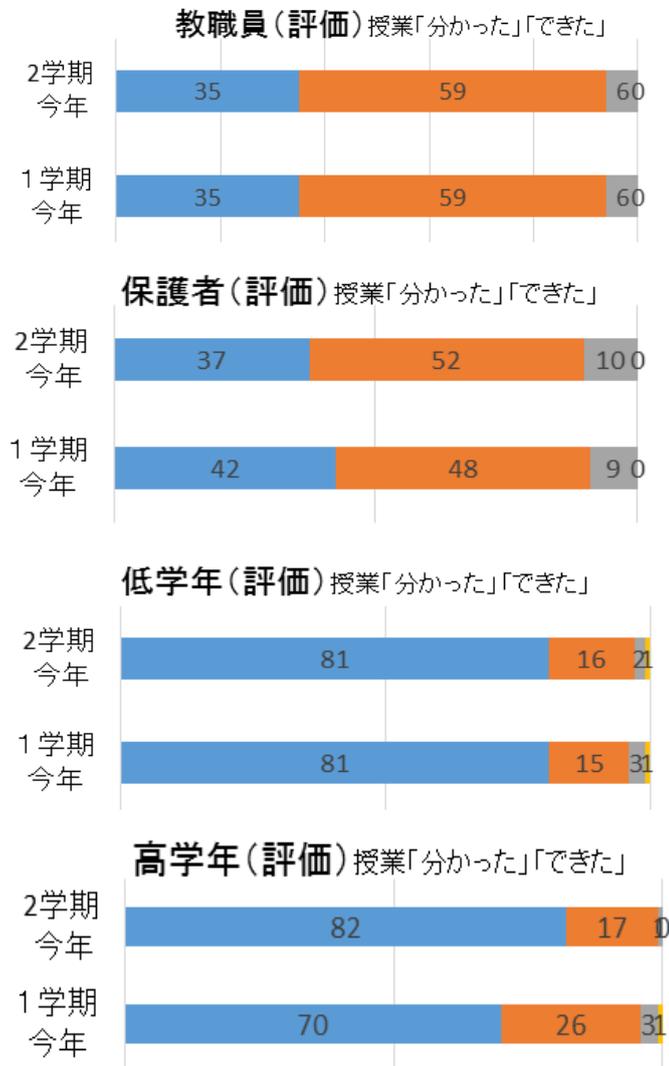
## 【学習指導】

	「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「分かった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。		A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問5 問6	35 47	59 47	6 6	0 0	A A
保護者	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問4 問5	37 31	52 51	10 16	0 1	B B
児童	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問5 問6	82 68	17 28	1 3	0 1	A A

**教職員** (項目5) 授業の中で、児童が「わかった」「できた」と言っていたり、振り返りで書いたりしている。

**保護者** (項目4) 学校の勉強で、分かることやできることが、ふえたと言っている。

**児童** (項目5) 勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。



〈「分かった」「できた」と実感、学ぶ意欲について〉

- ・低学年、高学年も、勉強で少しでも分かることやできることが増えたという意見であった。
- ・今後、教職員が授業の中で、児童一人ひとりの理解を図り、児童がつまづきやすい所やわからない所を分かりやすく指導していくことを今後も続けていきたい。
- ・また、児童のふりかえりを活かしていくことも大切にする。

教職員

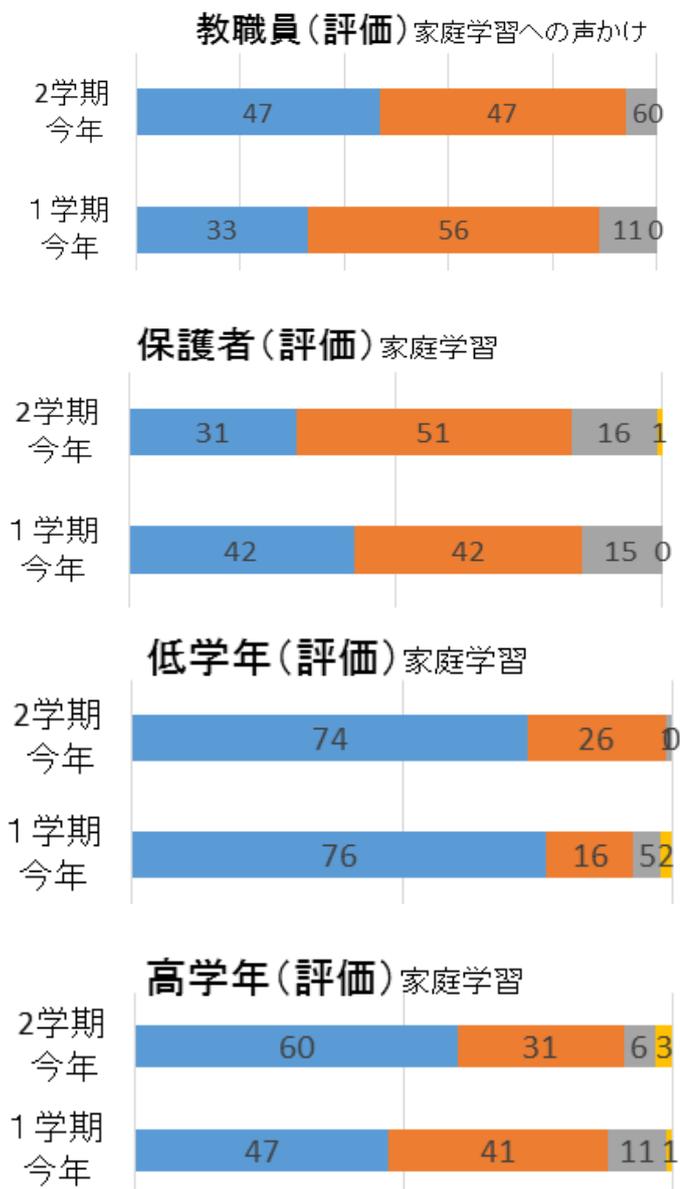
(項目6) 家庭学習の質の向上につながる声かけや働きかけをしてきた。

保護者

(項目5) 家庭学習をがんばっている。

児童

(項目6) 家庭学習をがんばっている。



〈家庭学習について〉

- ・児童は、家庭学習を頑張っていると答えている。
- ・教職員も同じようにとらえているが、保護者の評価は低くなっている。
- ・教職員、保護者ともに、提出はできていても、家庭学習の質の向上を求めていると考えられる。現在、提出していることが目的になっているところがある。
- ・今後、量をこなすことが目的ではなく、家庭学習の目的をもう一度見直し、取組方を考えていきたい。
- ・低学年は、家庭学習の習慣を身に付ける。課題をきちんと取り組める力を身に付ける。
- ・高学年は、自分の苦手な問題や課題を克服するための学習内容にしていく。
- ・授業で分かっているが、身に付いていないことを繰り返し練習する。反復練習を行って、学習内容を定着できるようにしていく。
- ・全学年で、個に応じた取り組み方を検討したい。

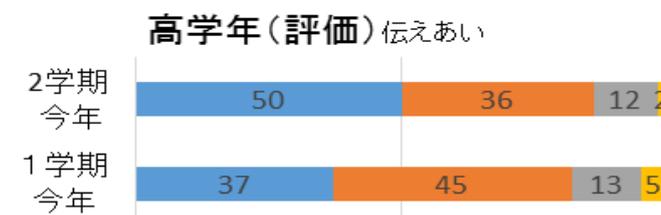
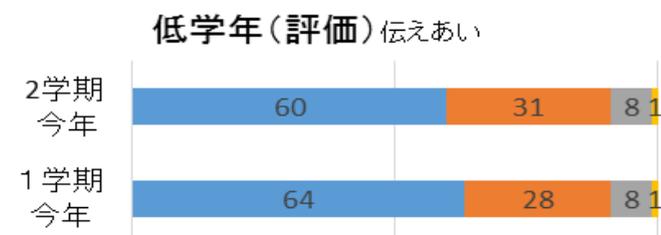
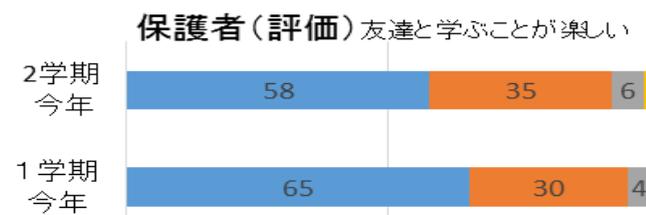
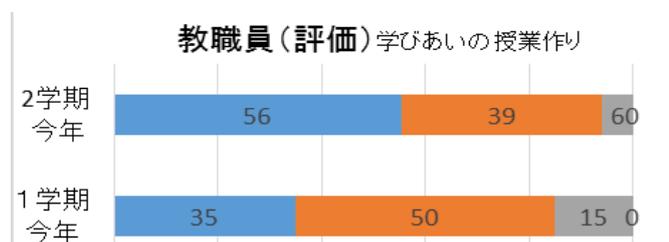
## 【学習指導】

	協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団作りに努める。		A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 7	56	39	6	0	A	A
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 6	58	35	6	1	A	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 7	56	33	10	1	B	

**教職員** (項目 7) 学びあいの授業づくりをする中で、友だちの意見を聞き、考えを伝える児童が増えてきた。

**保護者** (項目 6) 友だちと学ぶことが楽しいと言っている。

**児童** (項目 7) 友だちの意見を聞いたり、自分の思いをつたえたりすることができた。



〈学び合いについて〉

- ・低学年の児童は、特に変化をみることはできなかったが、高学年の児童は、友だちの意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりするなど、「学び合い」の授業が楽しいと感じていることが分かった。
- ・教職員も「学び合い」の授業づくりを行うことで、子ども達が主体的に、自分の考えを伝えたりする力や友だちの意見を聞くことができる児童が増えてきたと感じている。
- ・今後も、子ども達が主体的に、自分の考えを持つ、友だちや先生の話聞く、考えを説明する、まとめるといった力を高める授業づくりの研修を深めていきたい。
- ・また、児童が意欲的に学習参加できる授業づくりをしていく。

## 【人権教育】

	全領域における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を高め、自立向上する子どもを育てる。	%	A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+B が 95%以上 C : 上記以外	問 8 問 9	60 55	30 25	10 20	0 0	A A	A
保護者	A : A+B が 95%以上 C : 上記以外	問 7 問 8	46 51	51 47	4 2	0 0	A A	
児童	A : A+B が 95%以上 C : 上記以外	問 8 問 9	58 53	34 40	7 5	1 2	A A	

**教職員**

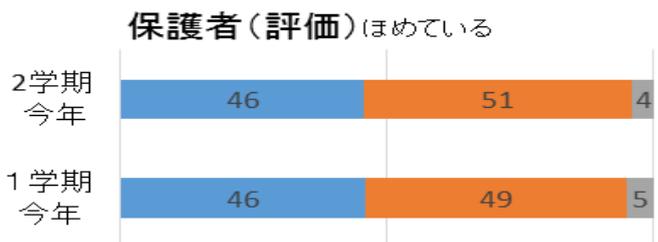
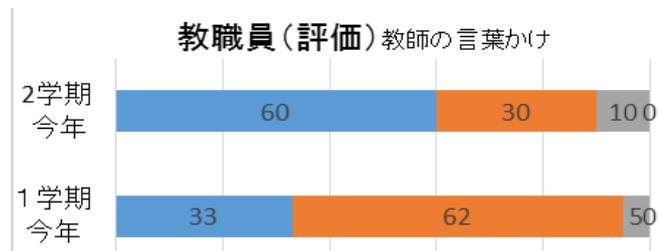
(項目 8) 子どもの伸びを認める (以前のその子と比べて) 言葉かけの質の向上に努めている。

**保護者**

(項目 7) お子さんのがんばりやよいところをほめている。

**児童**

(項目 8) 自分にはよいところがある。



〈自尊感情について〉

- ・教師は、「あてはまる。」と答えている割合が1学期より高くなっている。
- ・意識して子ども達に言葉かけをしていることが分かる。
- ・2学期の生活科・人権総合学習において自分を見つめ、一人ひとりが大切な存在であることを学んだ事が、子どもの心や行動につながっていると感じる。
- ・行事の多い2学期に、高学年は、主体的に取り組み、達成感を味わうことができた。
- ・さらに教師の声かけや達成感を味わえるような活動の充実を図っていきたい。

教職員

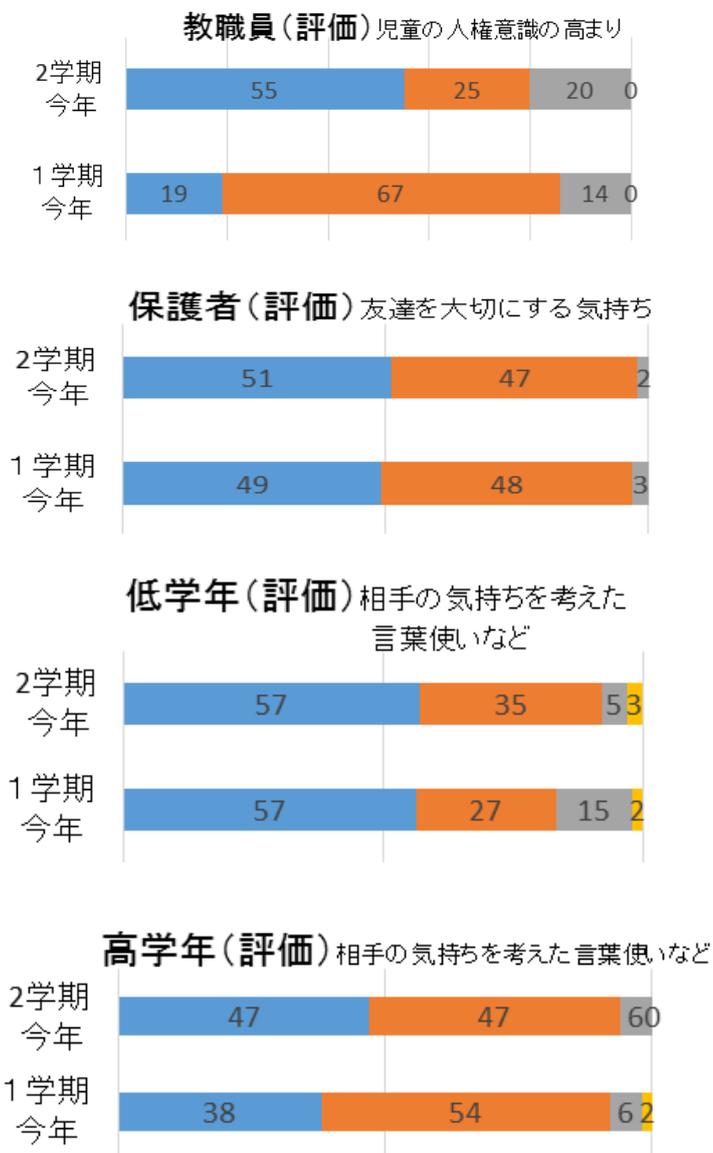
(項目 9) 児童の人権感覚や人権意識が育ってきている。

保護者

(項目 8) お子さんは、友達を大切にすることが育ってきている。

児童

(項目 9) 相手の気持ちを考えた行動・声かけ・言葉づかいができています。



〈人権意識について〉

- ・教職員は、「あてはまる」と答えた割合が大変高くなっている。
- ・生活目標の中の「中央っ子のいいね」や「ほんわか言葉」を見つけ、カードで紹介する活動を通して、子ども達の頑張っている姿がよく見られた。
- ・生活科・人権総合学習を通して、学んだ事を自分の生活に生かし、人や自分を大切にするためにどう取り組むかについて考えてきた。
- ・高学年、低学年共に相手の気持ちを考えた言葉遣いができていると答えた児童の割合が増えてきた。
- ・日常の生活の中には、まだまだ、相手を傷つけるような言動をする子もいる。引き続き、相手の気持ちを考えた行動ができる子に育てていきたい。